

Title	九州地区のリポジトリ論文集を支援する大学図書館
Author(s)	甲斐, 重武
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/14166
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

国立大学図書館協会近畿地区協会セミナー
「変容する大学図書館－図書館とは何をするとところ?－」

事例発表 3

九州地区のリポジトリ論文集 を支援する大学図書館

2010年9月16日

長崎大学学術情報部学術情報管理課長

甲斐重武

1

はじめに

1. セミナーのテーマと事例発表のテーマ
2. 九州地区のリポジトリ論文集
3. 支援する大学図書館
4. 今後の大学図書館

2

1. セミナーテーマと事例発表テーマ

1. セミナーテーマ

- 「**変容する**大学図書館－**図書館とは何をするとところ？**－」

2. セミナー開催趣旨

- **ここ数年**：電子学術資料の整備
- **場としての**図書館。教員連携、学習支援
- 文書館・**出版会**などと連携：**賛否両論**

3. 事例発表タイトル

- 「**九州地区のリポジトリ論文集を支援する**大学図書館」

2-1 九州地区のリポジトリ論文集

・ 国立大学協会九州支部

－ 九州地区国立大学間の連携に関する企画委員会

(委員長:長崎大学) 平成18年度

- ・ シンポジウム部会 (事務担当:宮崎大学)
- ・ 合同説明会部会 (事務担当:福岡教育大学)
- ・ 防災・環境ネットワーク部会 (事務担当:九州大学)
- ・ 教育の連携部会 (事務担当:熊本大学)
- ・ **リポジトリ部会** (事務担当:佐賀大学)

各大学で進行中の機関リポジトリを活用して、主に教育系・文系の学術論文を対象に、各大学が協力してレフリー制を備えた学術雑誌の出版活動を行う。

2-2 『研究論文集』

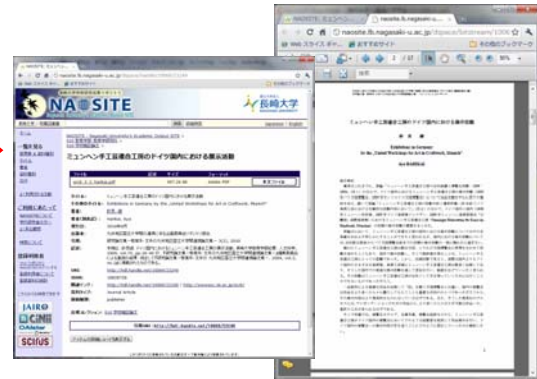
『研究論文集』 - 教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集 -

The Joint Journal of Academic Papers issued by the Faculties of Education and Humanities of the National Universities in Kyushu.

2008- 年2回 ISSN:1882-8728 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ecrk/>



目次情報のみ



論文本体は各大学の機関リポジトリに

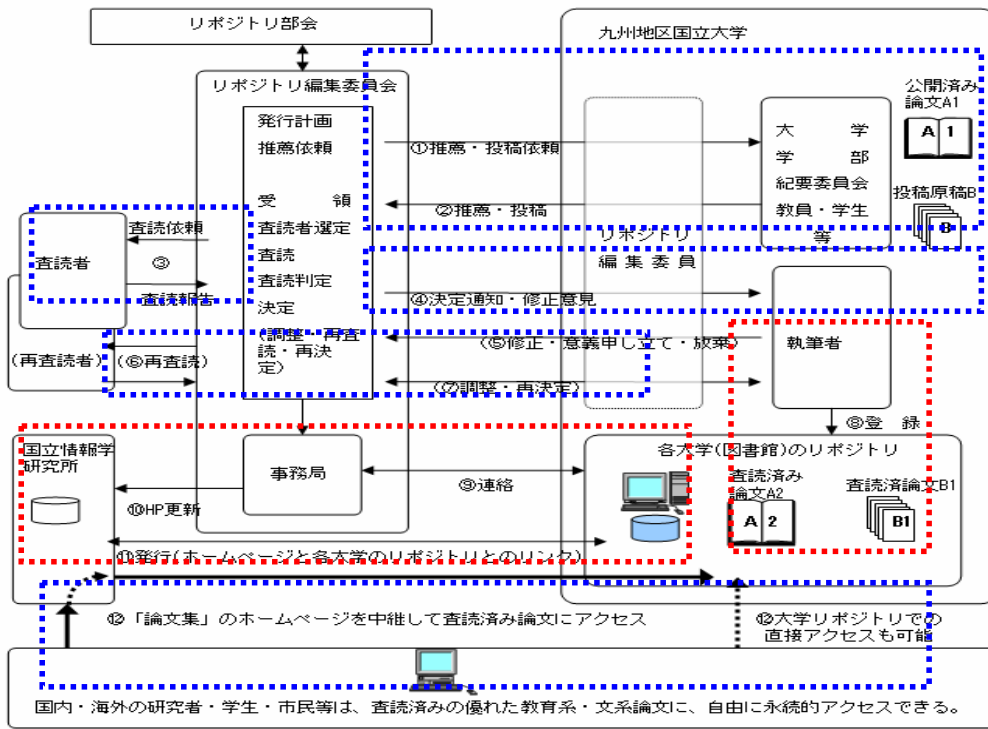
5

2-3 部会、編集委員会・編集事務局

- ・ リポジトリ部会
 - 11大学の副学長・図書館長・人文社会科学系教授等
 - 部会長：佐賀大学

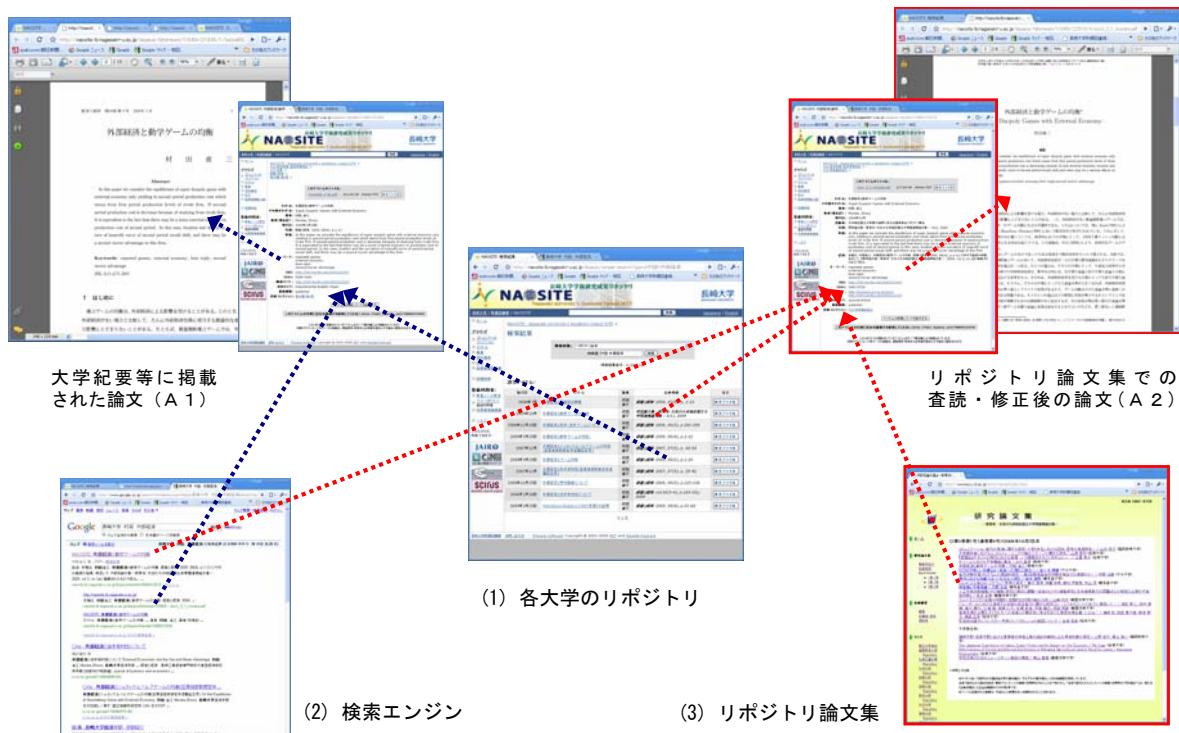
- ・ 編集委員会、事務局
 - 部会メンバが兼ねる
 - Aグループ(平19~20 佐賀,福岡教育,熊本,大分,鹿屋体育,琉球)
事務局：佐賀大学総務部
 - Bグループ(平21~22 長崎,九州,九州工業,宮崎,鹿児島)
事務局：長崎大学附属図書館

2-4 編集・発信のプロセス



7

2-5 多様なアクセス



8

2-6 論文の推薦・投稿(1)

- ・ 紀要等の論文から大学推薦、個人投稿も、大学院生枠も
- ・ 1巻1号(2008)–3巻2号(2010) 93論文

いわゆる取調べ受忍義務についての検討
 中世から近世への移行期における都市統治の構造と機能—帝国自由都市マイ
 ンツの都市参事会統治を中心に—
 国のモデル・社会保障「ヤミの北九州方式」の違法性を検証する—門司・小倉北
 餓死事件の法的検証と、運用実態の解明—
 地域で資源循環型社会を目指す取り組みとしての生ごみリサイクル事業—全国
 的趨勢と問題点の検討—
 地方ケーブルテレビの現状とコミュニティチャンネル—大分県佐伯市の事例研究
 —
 大邱中学校について—在朝鮮「内地人」学校の事例研究—
 教育においてアセントを得る?—教育の場における説得、その再考—
 破産手続における動産売買先取特権の取扱い
 社会関係基盤からとらえる社会関係資本—方法論覚書—
 私立大学に対する財政政策に関する実証的研究 —政府財政支出の構造と変
 容—
 純粋実践理性の根本原則は要請である
 経済的利益概念の展開—1980年代までの議論を中心に—
 青年期における自己への攻撃性と自己愛傾向の関連
 A Hint from Tom Jones; Byron's Versatile Adaptation of Epic Genre in Don
 Juan
 Byronic Ruskin: from Poetry to Architecture
 Impact of Formal and Informal Institutions in Land Tenure and Agricultural
 Productivity: The Case of Sri Lanka
 Japanese experience of labour export policy and its impact on the economy
 『琵琶記』テキストの明代における変遷—弋陽腔系テキストを中心に—
 リカードウの機械論について
 佐賀県の地方都市における高齢者の防災意識と土砂災害リスクの啓発
 佐賀藩蘭学再考—医学史的視点から—
 吹き替えに見られる男性文形式の様相

大学競技者におけるメンタルトレーニング行動のステージに関する研究
 有明海における漁民の環境認識—地名と流し網漁師の事例から—
 注意欠陥多動性障害のある幼児とのコミュニケーションに対する保育士の認識
 生前契約の必要性に関する世代間格差に関する研究
 貸金市場の不均衡分析
 1789/90年におけるブルク劇場のオペラ公演とモーツァルト—《コシ・ファン・トゥッテ》
 の成立をめぐる—
 Native Speakers' Judgments of Non-native Speech in Japanese: Politeness
 in Sales
 カフカの『新しい弁護士』—自由への憧れと諦念—
 地方都市における地域活動と社会参加—「2008年地域の暮らしと福祉に関する大
 分市民意識調査」データを用いて—
 大分県下における福祉ニーズの実態把握とその充足方法についての研究(その1)
 —大分県社会福祉協議会受託研究「生活課題実態調査」の結果と分析から—
 大分県下における福祉ニーズの実態把握とその充足方法についての研究(その2)
 —大分県社会福祉協議会受託研究「生活課題実態調査」の分析から—
 発達性協調運動障害のある児童に対する運動指導の効果
 自然体験学習プログラムの実証的研究 —第3回無垢島自然体験学習会での実践
 から—
 英語母語話者の「のだ」の習得研究—OPIデータの分析—
 White NoiseとCity of Glass—80年代型ポストモダン小説の一考察—
 「食育」と「家庭教育」—リアリティーと具体性を伴った学びのための栄養教諭との
 連携—
 「劉東山」小考
 アスペルガー障害の生徒が在籍する学級でのソーシャルスキル・トレーニングの効
 果
 国語科教育における地域言語教育—方言・標準語・共通語—
 宮崎語話者と東京語話者(1)—宮崎県都市部の調査から—
 御伽草子『七夕』覚書

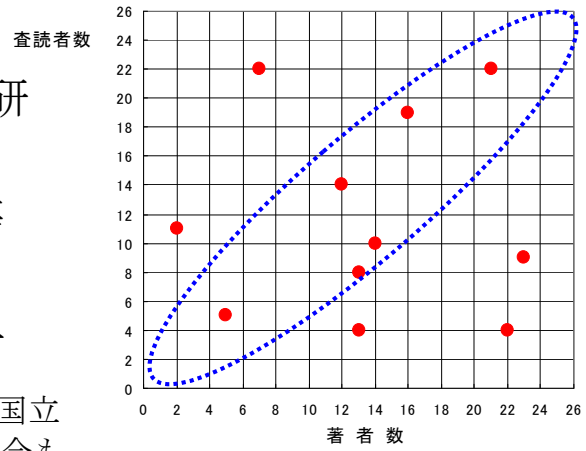
2-7 論文の推薦・投稿(2)

文学としてのマンガ(8): 文学の新しい定義について
 19世紀小説から『ユリシーズ』へ—フローベール、トルストイ、ジョイス
 地方公共サービスの生産性分析: 消防サービスにおける規模の経済と範囲の経
 済
 変則的な複式学級での授業実践に必要なものとは何か
 学習者のEMG計測、体圧分布計測および意識調査による学校用家具の検討—
 机・椅子の号数変化による中学生の意識および疲労の変化—
 学部教員養成教育と教育実習の接続に関する質的研究
 形容詞述語文についての一考察(2): 「うれしい」の誘因について
 沖縄の「伝統食」承継に関する調理学的研究(第1報)—高校生の実態・意識調
 査を中心に—
 発達支援が必要な子どもたちへの他者との関係性に焦点を当てた集団支援企
 画「ツユコレ」
 複式学級での授業実践力の育成をめざす教育実践—長崎大学教育学部「複式
 教育論」での試行—
 「栽培」活動を基にしたエネルギー環境教育の実践
 コミュニケーション能力の発達に関する研究—小学5年生における認知・思考の発
 達特性—
 デジタル超音波距離計を用いた運動実験の定量的解析の試み
 沖永良部島方言動詞の形態音韻論
 登校回避感情の測定は、頻度によるのか強度によるのか—双方からの測定の
 試み—
 福岡平野・筑紫平野における夏季晴天時地上風の統計的解析による局地気象
 の研究
 ASEAN・東アジアにおける中間財貿易の循環的連結構造: 1990-1995-2000年
 アジア国際産業連関表による分析
 ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工房の展示活動
 ネパールにおける平和構築と憲法
 人員間の距離とコミュニケーション・パターンに関する実証分析: ある国内電機メーカを対
 象として
 外部経済と動学ゲームの均衡
 算数的活動の視点からみた複式授業における「わたり」の考察 —サイエンス・パートナー
 シップ・プロジェクトにおける取り組みから—
 超分散型ビジネスシステム構築と情報活用方向性(経営のアジリティ化を目指す情報
 システムの実現可能性)
 離島地域の中学校におけるビジネスゲームの導入に関する基礎的研究

1920年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究
 M. エンデンの『はてしない物語』に見られる振動医学的效果について
 トマス・モア『ウートピア』の再解釈
 体育授業における達成目標と援助要請の関係
 合唱活動における「体ほぐしの運動」の一試案
 同性婚と平等保護
 大統領の憲法解釈—アメリカ合衆国におけるSigning Statementsを巡る論
 争を中心に—
 曾子の孝説—『内礼』と『大戴礼記』曾子本孝、曾子立孝、曾子事父母篇を
 めぐる—
 現代における知識人は、いかなる人物か
 福岡市方言の音調変異について
 豪州シドニー大学における「原理と実践」に基づく教育改善の取り組み
 選好ならびに「変動」の、ダーウィニアン視点からの計算機実験による
 導出
 銀行監督者の名声重視と銀行規制
 鹿児島県における郵便局と民間金融機関の店舗配置
 Javalによる組込みソフトウェア教育の研究
 チャレンジに対する地域住民の評価
 バレーボールにおける連続する技術の修正能力に関する研究(2) —トス
 からスパイクまでに着目して—
 フィットネスクラブ会員の時間的・空間的な利用行動の分析
 人工多能性幹細胞(iPS細胞)研究の現状と課題—従来のヒトES細胞研究と
 生命倫理最大の問題点との相克の止揚の可能性を探る
 剣道の引き面及び引き小手動作における上肢の反応時間と筋活動様式
 国際柔道連盟(IJF)における青色柔道衣採用に関する研究—1997年IJF総
 会までの経緯と総会資料の検証—
 大学女子バレーボール選手における心理的特性と状態の長期的変化に関
 する事例的研究
 学校体育のためのニュースポーツ種目の開発
 柔道の礼法と武道の国際化に関する考察
 知的発達障害者における柔道療法
 高校生における教師に対する信頼感と学校適応感の関係

2-8 査読者選考

- ・ 選考が困難
- ・ **Read,J-Global,CiNii**,大学の研究者データベースで検索
- ・ 編集委員の所属大学研究者等
- ・ 九州地区の国立大学の研究者
専門分化した領域の場合、九州地区の国立大学では、著者以外に適任者なしの場合も
- ・ 公私立大学、他地域の研究者



大学別著者数・査読者数

3-1 図書館でのリポトリ登録

- ・ 原稿修正、登録、修正、ヘッダー、フッター、論文末尾等
- ・ メタデータ作成

ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工場の展示活動

Exhibitions in Germany
by the "United Workshops for Art in Craftwork, Munich"
Aya HARKAI

目次

要旨

本文

ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工場の展示活動

ファイル	記録	サイズ	フォーマット
zobokagaiku75_28.pdf		171.46 kB	Adobe PDF

タイトル: ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工場の展示活動

その他のタイトル: Exhibitions in Germany by the "United Workshops for Art in Craftwork, Munich"

著者: 虹川 綾

著者(別表記): Harkai, Aya

発行日: 2010年3月1日

出版者: 名城大学教育学部

引用: 名城大学教育学部誌, 人文科学, vol.75, pp.26-40; 2009

URI: http://hdl.handle.net/10069/22106

ISSN: 13451367

購読リンク: http://ci.nii.ac.jp/naid/110097109549/ / http://hdl.handle.net/10069/23249

資料タイプ: Departmental Bulletin Paper

投稿種別: publisher

ミュンヘン手工芸連合工場のドイツ国内における展示活動

新 著 集

Exhibitions in Germany
by the "United Workshops for Art in Craftwork, Munich"
Aya HARKAI

目次

要旨

本文

ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工場の展示活動

要旨

本文

ドイツ国内におけるミュンヘン手工芸連合工場の展示活動

ファイル	記録	サイズ	フォーマット
zobokagaiku75_28.pdf		997.26 kB	Adobe PDF

タイトル: ミュンヘン手工芸連合工場のドイツ国内における展示活動

その他のタイトル: Exhibitions in Germany by the "United Workshops for Art in Craftwork, Munich"

著者: 虹川 綾

著者(別表記): Harkai, Aya

発行日: 2010年3月

出版者: 九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会(学術的)分科会

引用: 研究論文集-数値化-を伴った学術的リポトリ論文集の構築と活用, 2010

記録: 研究論文集-数値化-を伴った学術的リポトリ論文集の構築と活用, 2010

URI: http://hdl.handle.net/10069/22106 / http://www.soc.ni.ac.jp/sock/

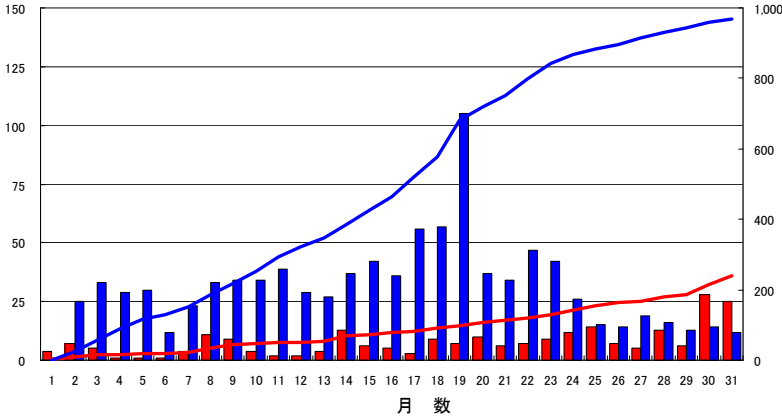
ISSN: 18822979

購読リンク: http://hdl.handle.net/10069/22106 / http://www.soc.ni.ac.jp/sock/

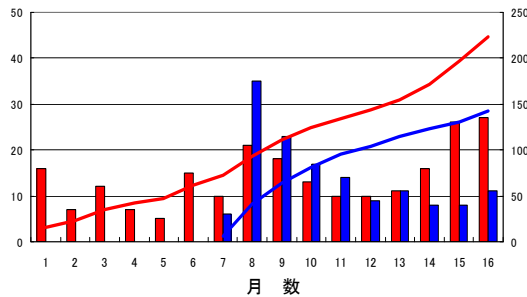
資料タイプ: Journal Article

投稿種別: publisher

3-2 ダウンロード回数の活用



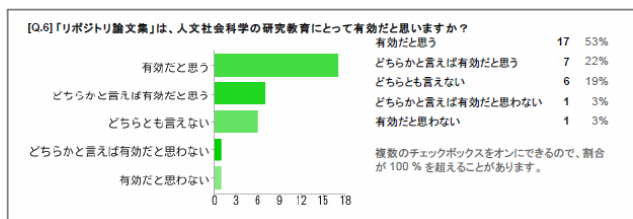
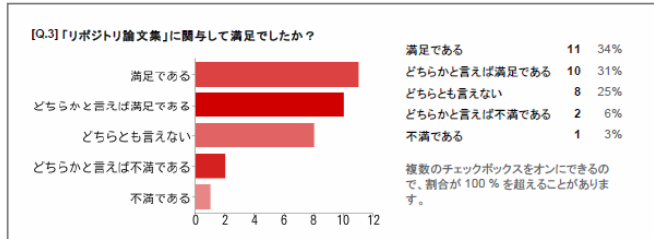
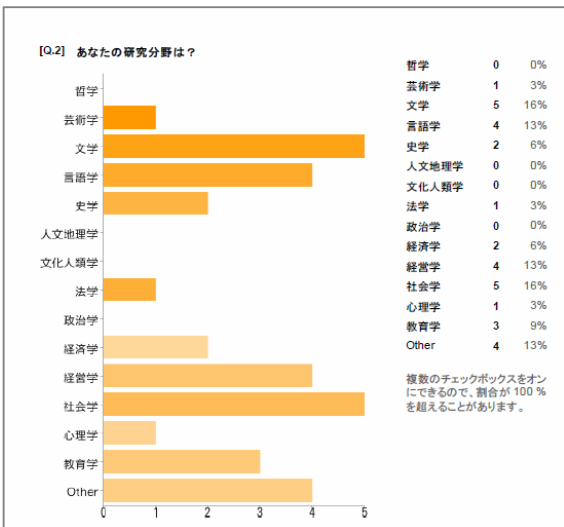
「リポジトリ論文集」の論文のほうの、紀要掲載論文よりも利用が多いケース



「リポジトリ論文集」の論文は登録直後は多いが、紀要論文のほうが安定的に利用されているケース

3-3 著者・査読者の意見

著者・査読者約170名。Web上のアンケート実施(2010.9)。32名から回答。



3-4 著者・査読者の主な意見(リポジトリ関連から)

- ・業績表に何と書けばいいのかわからない
- ・とかく人文社会系のクローズした発表環境から一歩前進したもの
- ・結局紙媒体に戻さないと、読む気にもならず、読んだ気もしない
- ・電子ジャーナルが、大変高額になっているなかで、こういうシステムを広げていくことは必要
- ・単なる大学の紀要よりも、掲載論文が読まれる頻度が高くなっている
- ・それぞれの大学のリポジトリでダウンロードランキングが高いものを査読と掲載の対象に加えてもよいのではないか。
- ・各大学のリポジトリとの連携をすることは有意味。海外の大学とも連携をした方がよい。
- ・リポジトリ論文集に掲載された論文の場合、頁番号をどうしたらいいのか、よくわからないところがあった。
- ・本当にどう評価されているのか、認知されているのか。
- ・紙媒体での出版があってもよい。
- ・ほかの研究分野の論文など読むこともないので、学際交流という意味で有効だとは思う。
- ・論集の名前にもっと工夫があってもよいのでは
- ・情報発信の拡大を切に願います。
- ・掲載機会の少ない文系の大学院生を含めた若手の研究者の投稿数を増やす努力が必要。
- ・当方の所属機関では紀要が廃止されました。過去の紀要に掲載されたものも受け付けてもらえるようになれば良い。
- ・リポジトリ論文集事務担当の負担はどうなのでしょう。
- ・事務的に大変なことも多いと思います。
- ・存在自体はありがたいです。ただ、一般的認知度が心配なだけです。
- ・もう少し広報をされた方がよいと思います。試みはいいものだと思います。

3-5 図書館担当者の意見

① 統一的な処理

スタート時、機関リポジトリ未開設大学もあり、大学方針に依存。

② メタデータの標準化(OAI-PMH活用)

③ 巻号, ページ表記

④ ランニングタイトル

⑤ 新論文と元論文の間のリンク付け

⑥ 論文集のタイトル

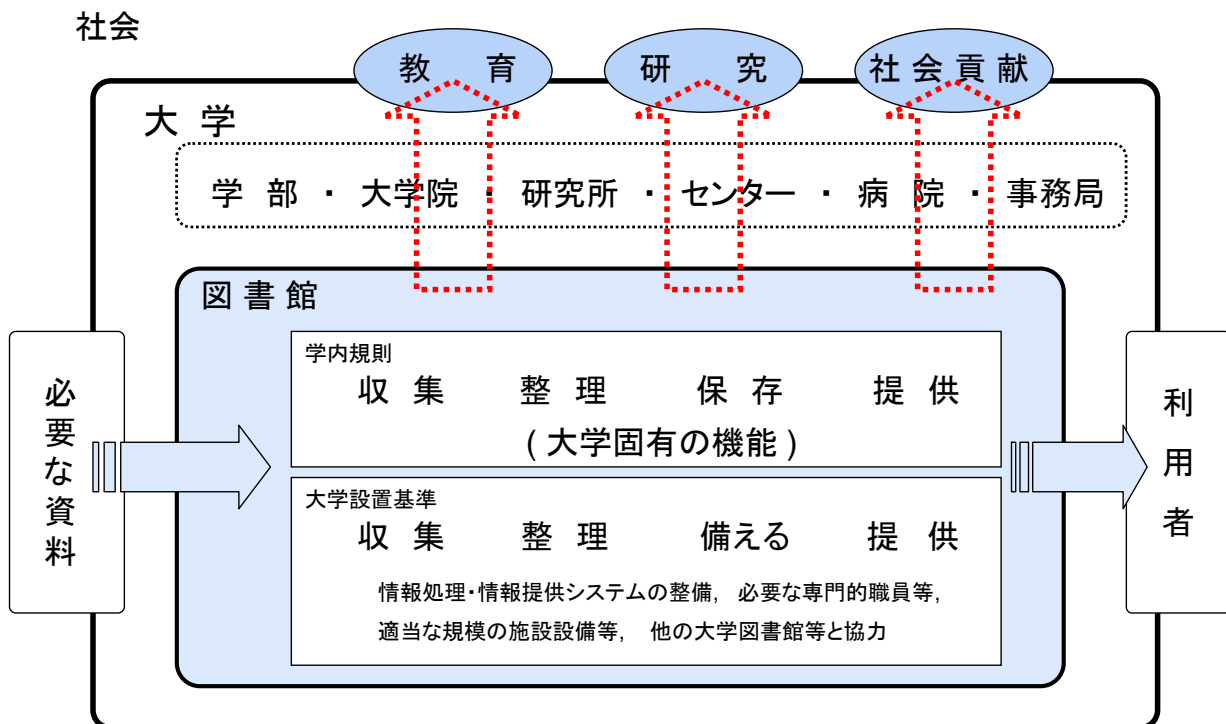
⑦ 研究者, 大学への広報

3-6 「リポジトリ論文集」改善の検討

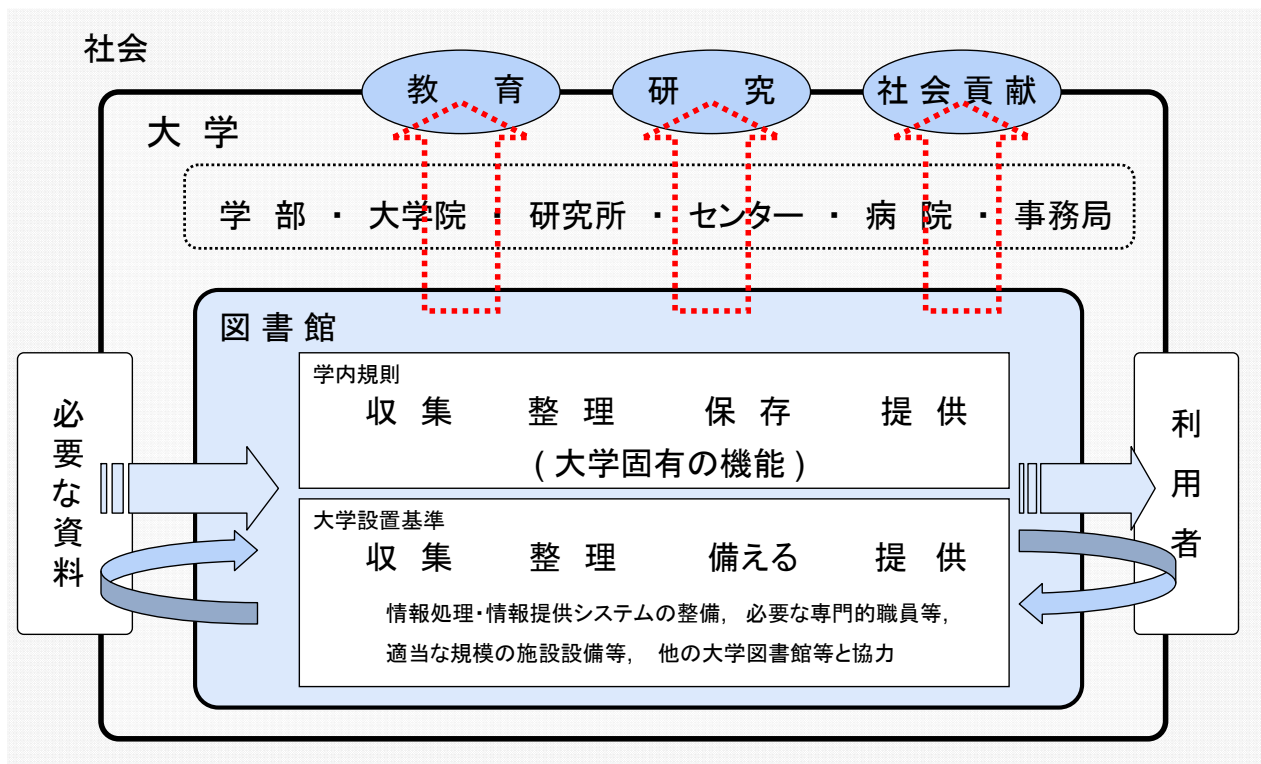
- ・ 編集・発行方針の見直し
 - 経費負担：組織（委員会・事務局）
 - タイトルチェンジ
 - 推薦論文のみ
 - 発行頻度
 - 英語化
 - 機関リポジトリの機能活用

- ・ 2010年秋検討、2011年3月改善決定

4-1 大学図書館の概念図



4-2 変容する大学図書館



19

4-3 大学出版会と図書館・機関リポジトリ

■ “「出版会」で大学に売り込め 国立大、法人化で倍増” (朝日新聞 2009年7月9日)

■大学の年度計画での「大学出版会」

- ①教員に対して教科書・参考書・資料集等の執筆を奨励する。その一環として、大阪大学出版会との連携をとる。(平成21年度 大阪大学)
- ②京都大学学術出版会の活性化と連携強化に関する具体的方策) - 京都大学学術出版会の活用による学術研究書等の刊行を奨励・支援する。- 大学が所有する教育的及び学術的価値の優れた文献等の翻刻・復刻事業を推進する。(平成21年度 京都大学)
- ③出版会活動の在り方を検証し、望ましい組織体制と事業拡充計画を策定する。(平成22年度 広島大学)
- ④学内組織であるという出版会の特徴を最大限に活用し、学術情報の社会還元と地域に根ざした出版事業を推進する。- 出版会設立の目的である各教員の研究成果の発表のほか、教科書の刊行、学生や職員以外にも門戸を拡げた出版物の刊行ソースの拡大を目指す。- 各学部で発行している学術雑誌などの定期刊行物について、積極的に出版会からの発行を目指す。- 専門的知識を有する編集者の外部登用など、運営体制を確立する。(平成22年度 弘前大学)
- ⑤大学と附属学校共同研究会(教育実習部会)が協力して、「教育実習の手引き」改訂を行い、平成21年度後期実習における試行を踏まえて次年度には大学出版会より刊行する。(平成22年度 愛知教育大学)
- ⑥東京農工大学出版会と連携した取組を強化するため、全学広報・社会貢献委員会の下に、「理科離れ問題の解消のための知的貢献検討委員会(仮称)」を設置する。(平成22年度 東京農工大学)
- ⑦岡山大学出版会は、引き続き着実に良書の出版を重ねることによって学術出版機関としての地位の確立に努めるとともに経営基盤の改善に努める。(平成21年度 岡山大学)
- ⑧東京藝術大学出版会の基礎を確立させるため、教員等の教育・研究成果を社会に発信する刊行物等の出版数を増加させる。(平成22年度 東京藝術大学)
- ⑨小樽商科大学出版会の機能を充実させ、出版物の発行を継続するとともに、現行の出版制度について検証する。(平成22年度 小樽商科大学)
- ⑩地域における学術情報の中核的拠点として、附属図書館の開放をさらに拡大する。また、教員による研究成果の出版と本学独自の教材の開発・出版を促進するために、大学出版会の設立を検討し結論を出す。(平成21年度 信州大学)
- ⑪滋賀大学出版会(仮称)の設立について、他大学の実情を調査する。(平成22年度 滋賀大学)

20

4-4 変わる大学、変わる大学図書館

1. 世界的・全国的

- 大学が変わる：運営費交付金、法人化第二期、科学技術基本計画
- 資料が変わる：電子書籍、電子教科書、iPad等
- 図書館が変わる

2. 長崎大学・長崎大学附属図書館

- 新しい教養教育、学部・研究科組織改組、新たな個性
- 主張する能力、発信する能力、本質理解、学問尊敬
- 図書館は関係部局と連携して大学課題に対応
 - ・ライティング指導支援、電子コンテンツ作成支援
 - ・機関リポジトリと大学電子出版会、教育成果の発信
- 他大学・他大学図書館と連携して対応

おわりに

1. 大学図書館は、大学の目的を実現するための手段のひとつである。
2. 大学図書館は、学術情報流通のための最も有効な手段である。
3. 大学は学術情報を生産し、大学図書館はその流通を高める。
4. 大学図書館は、成長する（変容する）有機体である。
大学は社会を変える（社会貢献）ために自ら変わり、
大学図書館はそのための学術情報流通を変えるために自ら変わる。
5. 大学図書館は、成長し続けるために他の図書館と協力する。
（総合目録、相互利用、新たな協力）